

特集 おもいをカタチにデザインする
～道民児連民児協のあり方検討委員会が発足～

インフォメーション

- 春の褒章・叙勲 4
- 令和4年度事業報告・収支決算..... 5
- おすすめ書籍「ブックレビュー」..... 8
- エッセイ:ひとをつなぐ
「10いつかの日まで」 8



おもいをカタチにデザインする

〈道民児連民児協のあり方検討委員会が発足〉

令和5年度より

「民生委員児童委員協議会のあり方に関する検討委員会」が

「民児協のあり方検討委員会」と名称を改め、

常設委員会となりました。

委員は「民生委員児童委員協議会の

あり方に関する検討委員会」のメンバーに

旭川市民児連柴田事務局長を加えた7名で構成されています。

4月24日に開催した第1回委検討員会では

委員長に鳥居一頼、

副委員長に馬淵一道民児連理事が選出され、

引き続き委員会の舵取りを担っていくこととなりました。



■全地区で実施できた 令和4年度初任者研修

1月21日、吹雪について小樽市で開催した後志地区を皮切りに、3月24日の稚内市での宗谷地区の初任者研修を終えた瞬間、道民児連のスタッフは14地区を無事完了した安堵感と達成感に感無量の面持ちでした。

1月から3月までの1か月間、厳冬の道内を巡るには風雪害は避けられず、コロナ禍では中止や延期を余儀なくされました。全地区を支障なく開催できたのは、ここ十数年なかったことから快挙ともいえます。

昨年12月に委嘱された初任者は約1,800名ですが、研修を受講された人は1,686名(開催地関係者や引率した民児協役員及び事務局職員も含む合算数)に及びます。感染症拡大に対する社会の風潮が多少緩んだとはいえ、参加者の学習意欲と活動への熱意を深く感じた事業となりました。また、その深刻さを突きつけた一

斉改選でしたが、委嘱された初任者への期待は高まるばかりです。アンケート調査の結果は、「受講して前向きな気持ちになったか」という問いに、回答した1,334名のうち90%の人が肯定され、「研修への参加」については95%の人が良かったと肯定しています。座学中心の研修でしたが、グループワークなど本来の手法を展開すれば、満足度はさらに高まったことでしょう。

道民児連では事業ごとに必ずアンケート調査を実施し、結果を数量化します。自由欄の記載も丁寧に分析されて、事業の検証と同時に改善の方策を参加者と共に構築しているのです。

ホームページで紹介されている多くの調査報告書は、道内の民生委員児童委員の実態を示す貴重なデータであり、過去と現在を比較しつつ明日への展望を見出す裏付けです。多くの民生委員の声が集約され反映された成果であり、道民児連が組織や事業改革に力を入れる根拠ともなっています。

■新たな重責を担う

その改革は、共感し協働しながら支援されてきた皆さんのおもいを束ね、民生委員活動を活性化するエネルギーとして現場力を高めていくものと信じています。

4月24日、時限的ではありながら外部委員会として道民児連を支援してきた「民生委員児童委員協議会のあり方に関する検討委員会」と名称を改めて常設することとなり、その第1回委員会が開催されました。

その趣旨は、委員のなり手不足、次代を担う人材の確保、支え合う民児協づくりや研修の質の確保など、直面している喫緊の課題について、先の委員会の提言を継承しながら、継続的に研究協議を重ね、よりよき改善をめざした提言を行うことにあります。

所管事項は①支え合う民児協づくりを目的とした運営のあり

方の研究及び提案、②委員の研修のあり方の研究及び提案、③委員のなり手不足の課題に関する研究及び提案、④第3次北海道民生委員児童委員活動指針の進捗状況の評価、⑤道民児連市町村民児協活性化事業モデル指定民児協の選考、⑥その他目的を達成するための必要な事項です。

①②③は継続事項であり、先の委員会でも3年間取り組んできた事実です。実践検証を踏まえながらさらなる研究の重要性を認識しなければなりません。

④の第3次北海道民生委員児童委員活動指針(『令和4年度民生委員児童委員活動のてびき』の「第6章民生委員児童委員活動の背景第4」p131参照)の評価は、重要な事項です。現状の活動や今後の方向性を確かめると共に、確実に取り組んでいくための重要な指針となる具体的活動が明記されています。その進捗状況の把握と今後の展開を含めた展望をもった評価は必須となり、それをどのよう共有するかも重要な課題となります。

今回委員として委嘱されたのは、先の委員会から引き続き、委員長に馬淵一道民児連理事(オホーツク地区支部長・小清水町民児協会長)、委員に松田尚美道民連理事(富良野市民児協会長)、篠原辰二氏(一社Valbe Design理事長、藤江紀彦氏(登別市社会福祉協議会常務理事・事務局長)、柴田淳氏(旭川市民児連事務局長)、長谷川稔道民児連常務理事・事務局長、



⑤の市町村民児協活性化事業を先駆的に推進するモデル民児協の指定選考は、選考だけでなく、その成果物をいかに全道の民児協や委員と共有することもできないがしろにできない視点です。全道規模の研修の機会はもちろん、民児協内での研修などで参考にされることも考慮しなければなりません。モデル事業と他市町村での活動が有効に連動するよう考えていくことも大切な委員会の機能となるでしょう。

今回委員として委嘱されたのは、先の委員会から引き続き、委員長に馬淵一道民児連理事(オホーツク地区支部長・小清水町民児協会長)、委員に松田尚美道民連理事(富良野市民児協会長)、篠原辰二氏(一社Valbe Design理事長、藤江紀彦氏(登別市社会福祉協議会常務理事・事務局長)、柴田淳氏(旭川市民児連事務局長)、長谷川稔道民児連常務理事・事務局長、

そして、学識経験者として鳥居一頼が委員長に選任されました。任期は3年間、為すべき多くの課題にどう向き合い提言にまとめ上げていくのか、その重責を担う覚悟を共有しつつ、新スタートを切ります。

■改革された研修とモデル事業

コロナ禍では普段の活動も制限され、特に研修を受けられず心の渇きを覚えた方々に、少しでもそのおもいに添いたいという果敢に改善に取り組みます。

民児協が独自に研修に取り組むためのテキストとして『民生委員児童委員研修企画の手引き』と『民生委員児童委員のためのワークショップのすすめ』を作成し配布しました。テキストを活用した研修では、従来の「中堅民生委員児童委員教室」を宿泊型から1日開催プログラムと通いの2日開催プログラムに大胆に変更して、地域開催のモデル事業として2か所で実施しました。

容を盛り込んだプログラムも並行して実施するといった工夫もしています。特にWebを利用した研修のあり方を模索し、全道規模の研修に導入したのを始め、ハイブリットの研修も随時実施し、参加しやすい環境づくりに注力しました。その研修スタイルの確立は、情報ネットワーク時代に対応した研修のあり方として高い評価を受けたことで、今年度のICT環境を整備するモデル事業にシフトする契機ともなりました。

リアルタイムで全道規模の研修に参加できる利点は、遠方にも居ながらにして民児協の仲間と共に学び合えることです。さらに民児協内で研修後の振り返りをする中で、相互理解につなげることも可能です。また研修テーマに関心のある一般の方を招き入れることで、民生委員活動の理解や支援につながる手立てとなるかもしれません。

■おもいをカタチにデザインする

時代は、地域での暮らしに困

難性を抱え生きにくさや生きづらさを感じる人が救いを求めています。その人たちに真摯に向き合う民生委員児童委員の皆さんのおもいをカタチにしていくお手伝いを、僭越ながら道民児連のスタッフと共に私たち委員会に課せられた責務と考え、これから3年間全うしてまいりたいと考えています。

4月、道民児連の前常務理事・事務局長であった菅浦信也さんが急逝されました。「道民児連を革新する時が来た」という熱いお

もいは、「研修プログラムはできるだけクオリティの高いものを提供したい」という道民児連スタッフの矜持として継承され、奮い立たせます。全道の民生委員児童委員の皆さんと道民児連スタッフの共通のおもいをカタチにデザインすることは、菅浦氏の願いを実現



することに他なりません。私たち検討委員会も、厳しい社会情勢の中で果敢に重要課題に取り組み道民児連を下支えし、懸案事項を一つでも多く提言にまとめることができるよう誠心誠意努力してまいります。ひるまず前を向いて一歩、皆さんと共感同行の道に踏み出します。

受章おめでとう ございます

【令和5年春の褒章・叙勲】

令和5年度、春の褒章・叙勲で、受章された民生委員児童委員の方々をご紹介します。(敬称略)

●春の褒章・叙勲受章者

◆藍綬褒章

- 高橋 房子 (小樽市 現)
- 早坂今朝吉 (釧路町 現)

◆叙勲受章者

◇瑞宝双光章

- 安岡 俊博 (帯広市 現)
- 苫米地幸市 (倶知安町 現)
- 村上 拓 (旭川市 元)
- 早坂きみ子 (伊達市 元)
- 穴田 健三 (北広島市 元)
- 竹原 嘉一 (新十津川町 元)

◇瑞宝単光章

- 川島 芳治 (登別市 現)
- 渡邊 信光 (南幌町 現)
- 山田 啓一 (月形町 現)
- 土井ヒロ子 (釧路町 現)
- 奥原 忻子 (苫小牧市 元)
- 村重 重琉 (伊達市 元)
- 千田瑠美子 (北斗市 元)
- 中山 廣子 (白老町 元)

雑談力



五百田 達成 著
デズカヴァー・トゥエンティワン
1,430円(税込)

■ 内容

「雑談は普段の会話とは違う」。この位置付けて、初対面の相手とも会話のキャッチボールを続ける秘訣について記されたハウツー本。

著者は作家でありながら心理カウンセラーとしても活躍しています。これまでもコミュニケーションの最も重要なツールと言える「会話をテーマにした、いくつかの書籍を發表してきました。

わたしたち民生委員児童委員にとって、会話力は欠くことのできない技能です。ただし、一方的に自分の主張を述べるのではなく、本当の会話にはなりません。相手の口から発せられる言葉に傾聴し、その中に潜む真意をくみ取るために、聴き手が備えるべきクリティカルな思考と、相手が話を続けなくなる効果的な質問や深掘りのテクニックが、本書にはさまざまなお手本が紹介されています。

紹介されています。

と言っても、そこはカチコチの理詰めではありません。目指すのは相手との心の距離を縮める会話術。雑談とは、そうした話術だと著者は定義づけているのです。

初版は2019年の発行ですからすでに4年が経過しています。一時もはやされてすぐにブームが去りがちなハウツー本において、本書は未だにベストセラーを続けています。その理由は、時代は変われども決して損なわれることのないコミュニケーションの重要性を多くの人が認識し、少しでも対人関係を円滑に行いたいというニーズがあるからにほかなりません。

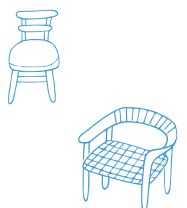
記されているすべてを実践するのは困難だとしても、読めば必ず「使えるフレーズが見つかるはず。仕事や家庭、シチュエーションを問わず役立つ一冊。

エッセイ



⑩ いつかの日まで

鳥居 一頼



降る雨もいつかやみます
吹く風もいつかきつとおさまります
いつかの日まで耐えることが試されます

知識とスキルはいつか役に立ちます
豊かな情感はいつかきつと力になります
いつかの日まで
学びのありようが試されます

哀しみもいつか癒えるでしょう
苦しみもいつかきつと楽になるでしょう
いつかの日まで忍ぶことが試されます

ともに歩むことで励まされるでしょう
ともに語り合うことで
元気がでるでしょう
いつかの日に空も心も晴れ渡ります

会うことでいつか受け入れられます
伝えることでいつかきつと理解されます
いつかの日まで笑顔が試されます

いつかの日まで
仲間と心通わせあため合いながら
民生委員としての役目を
果たしてまいります

誠意はいつか認められるでしょう
気遣いはいつかきつと報われるでしょう
いつかの日まで信じるものが試されます

【筆者紹介】

鳥居 一頼(トリイ カズヨリ) 1949年生、登別市出身、北海道教育大卒。道内で18年間教壇に立つ。道教委、道庁などに勤務後、室蘭・登別で小学校校長歴任。その後関西の私立大学の教授。現在、登別市きずな大使として市社協の地域福祉実践計画推進を支援するかわら、地域福祉アドバイザーとしても活動している。社会福祉法人北海道友愛福祉会理事。また道民児童連が令和4年より設置した「民生委員児童委員協議会」のあり方検討委員会の委員長を担われている。民生委員児童委員のためのワークショップのすすめ(道民児童連2021年刊)の中で詩集「情緒は私を支配する。論理よりも強く」が教材化され、初任者研修では詩をもちいた斬新な研修スタイルが評価されている。主な著書に「子どもと学ぶボランティア」こつちよのボランティア授業論(大阪ボランティア協会など)。